

令和元年6月21日現在

機関番号：77102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03689

研究課題名(和文) 中国人観光客の旅行行動と影響要因

研究課題名(英文) Travel behavior of Chinese outbound tourists and the underlying factors

研究代表者

戴 二彪 (DAI, ERBIAO)

公益財団法人アジア成長研究所・研究部・教授

研究者番号：20300840

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、世界最大の国際観光市場国に躍進している中国のアウトバウンド客の旅行行動に着目し、その行動パターンの特徴と影響要因を分析するものである。

三年間の研究期間において、中国国内の統計のほか、日本など主要観光先国や国際機関の関連統計を整理し、近年の中国人アウトバウンド旅行者の急増背景と動向を考察した。そして、主に訪日中国人旅行者を対象に、その旅行先選択行動、空港選択行動、宿泊先選択行動の特徴と影響要因をそれぞれ分析した。この研究の成果として、中国人客の観光行動に関する3つの論文は日本語雑誌に掲載されており、地域経済と観光に関する4つの論文は国際学術誌・日本語誌・中国語誌に掲載されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の日本において、政府の観光立国戦略の本格的推進に伴い、各地方自治体は外国人観光客の誘致を重要な地域振興策の一つとして重視している。ただし、三大都市圏を中心に訪日外国人客の規模が著しく増大しているが、多くの地方自治体では期待されたほどの効果はまだ現れていない。その原因の一つは、訪日外国人客の旅行行動はまだ十分理解されていないことである。世界最大の国際観光市場国中国のアウトバウンド客の旅行行動に焦点を当てた中国人客を対象とするこの研究は、国際観光行動の関連理論の発展に寄与するとともに、日本各地の効果的なインバウンド国際観光促進戦略の策定にも資することができる。

研究成果の概要(英文)： Focusing on the travel behavior of outbound tourists from China, which has become the world's largest sending country of international tourists, this study analyzes the characteristics and underlying factors of their behavior patterns.

In the three-year research period, besides statistical data of China, relevant statistical data of major tourist destinations such as Japan and international organizations were collected, and the factors causing the significant increase of outbound Chinese tourists were discussed. Then, mainly based on the data for Chinese tourists visiting Japan, their destination choice behavior, airport choice behavior, accommodation choice behavior, and the underlying factors were empirically analyzed. As the result of this study, three papers on tourist behavior of Chinese outbound tourists are published in Japanese journals, while five papers on regional development and tourism are published in international journals, Japanese journals and Chinese journal.

研究分野：アジア経済、都市と地域経済、国際人口移動

キーワード：旅行行動 国際観光客 中国人 旅行先選択 空港選択 宿泊先選択 影響要因 日本

1. 研究開始当初の背景

近年の日本において、インバウンド国際観光産業の成長が大きく期待されている。政府の観光立国戦略の本格的推進に伴い、各地方自治体は、外国人観光客の誘致を重要な地域振興策の柱の一つとして重視している。しかし、三大都市圏を中心に訪日外国人客の規模が著しく増大しているが、多くの地方自治体では、中国をはじめとするアジア観光客の誘致活動が実施されているものの、期待された経済効果はまだ現れていない。その原因の一つは、訪日外国人客の旅行行動がまだ十分理解されていないことである。

旅行行動は、旅行の諸段階における旅行者による様々な選択（旅行先選択、交通経路選択、宿泊先選択、買い物選択など）の“連続過程”である。地域のインバウンド観光産業を効果的に推進するためには、まず旅行者の旅行行動を正しく理解しなければならない。近年では、アジア客の旅行行動に対する関心の高まりに伴い、各国の政府統計データ（例えば日本観光庁統計データ）やアンケート調査データが蓄積されているが、適切な統計分析に基づく実証研究はまだかなり少ない。

2. 研究の目的

本研究は、世界一位の国際観光市場に躍進している中国からの観光客の旅行行動に焦点を当てて、国際観光客の旅行行動に関する学術研究の推進および日本各地の効果的なインバウンド観光振興戦略の策定に資するために、集計データやマイクロデータなど多様なデータと適切な統計分析手法に基づいて、訪日客を中心に、中国人国際観光客の旅行行動の特徴と影響要因を解明しようとするものである。

3. 研究の方法

旅行行動は複合的消費行動であるが、本研究では、旅行先（目的地）選択行動、空港選択行動、宿泊先の選択行動を中心に、中国人観光客の諸行動の特徴およびそれぞれの影響要因を分析する。具体的には、次の方法で、研究（調査・分析）を実施した。

(1) 中国および旅行先国の政府統計データや独自のアンケート調査データおよびインターネット上の各種関連情報・データを利用し、中国人観光客の急増背景と訪問先の国（地域）別動向を考察する。

(2) 集計データと回帰分析などに基づいて、中国人観光客の旅行行動に対する旅行先の地域属性、旅行者出発地（居住地）の地域属性、旅行先と旅行者出発地間の経済文化交流関係による影響を検証する。

(3) マイクロデータと離散型選択モデルを用いて、中国人観光客の旅行行動に対する旅行者個人属性（年齢、性別、学歴、職業、収入など）の影響を検証する。

4. 研究成果

本研究では、中国人客の旅行先（目的地）選択行動については、日本観光庁の宿泊統計データと修正重力モデルに基づいて検証し、次の分析結果が得られた(戴, 2016)。

(1) 中国における訪問先の知名度、訪問先の商業繁華度を示す年間商品売上額、訪問先と中国との人的交流関係を示す在住中国国籍者数、国際観光地としての人気度を示す年間外国人客延べ宿泊数、訪問先の観光客の受け入れ能力を反映するホテル客室数などの変数は、いずれも被説明変数「中国人客延べ宿泊者数」に顕著なプラスの影響を与えている。これらの変数はお互いに強く相関しており、どの変数も（中国人客にとって）地域の魅力度を反映していると言える。

(2) 被説明変数「中国人客延べ宿泊者数」に対して、訪問先の国際交通の利便性を示す国際航空便年間旅客数も顕著なプラスの影響を与えている。

(3) 訪問先の歴史名勝旧跡の数を示す国指定文化財（建物）の数という変数は、ほとんどのモデルにおいて統計的に有意な影響を与えていない。

また、訪日中国人客を含む外国人客の空港利用行動については、日本における30空港の最近3年間(2014~16年)の国際輸送に関するパネルデータと固定効果モデルを用いて検証したが、主な分析結果は次のように要約できる(戴, 2018)。

(1) 日本における各空港の入国・出国外国人客数は、主に需要要因としての空港所在地域の外国人訪問客数と供給要因としてのアジア行きの直行便数に大きく影響されている。

(2) 以上の結論は、中国からの訪日客の空港利用行動においても成立する。各空港の入国・出国中国人客数は、主に空港所在地域の中国人訪問客数とアジア行きの直行便数に左右されている。

(3) 同じ供給要因としての空港所在県内のライバル空港の存在は、外国人利用客全体の数に対して有意な影響を与えていないが、特定の国（例えば中国）からの空港利用客数に対しては、有意なマイナスの影響を与えている。

なお、本研究では、国土交通省の「訪日外国人消費動向調査」や「宿泊旅行統計」など統計データおよび訪問調査に基づいて、中国人客など訪日外国人客の宿泊施設選択行動の国(地域)別特徴と変化を考察した。さらに、「一人当たり一泊宿泊費」を宿泊施設選択行動の特徴を総合的に反映する指標とみなして、2014～2018年の18の国(地域)からの訪日客宿泊行動に関するパネルデータと変量効果モデルを用いて同指標の影響要因を検証した。分析結果によると、訪日外国人客の国別一人当たり一泊宿泊費は、注目されている一人当たり買物代と大きく違って、基本的に出身国の平均所得水準に左右されている。所得水準要因のほか、訪問目的や旅行客属性及び宿泊文化などの要因も影響しているとみられている(戴, 2019)。

5. 主な発表論文等

Dai Erbiao and Hatta Tatsuo, 2019, “The effects of demographic changes on regional economic growth: Evidence from Japan”, *Singapore Economic Review (Special Issue: Economic Issues of Population Aging in Asia)* (DOI: 10.1142/S0217590818420109, forthcoming) .

戴二彪, 2019, 「訪日アジア客の宿泊施設選択行動」『アジア成長研究所研究報告書 2018-01』。

戴二彪, 2018, 「訪日外国人客の空港利用行動と影響要因」『東アジアへの視点』Vol.29, pp. 16-31。

田村一軌, 坂本博, 戴二彪, 2018, 「日本における女性の地域間移動パターンと影響要因」『海峡圏研究』(日韓研究機関協議会年刊) 第17号, pp.141-158。

戴二彪, 2017, 「中国的包容性発展戦略及其对区域間收入差距の影響」(「中国の包摂的な発展戦略による地域間所得格差への影響」『世界経済文匯』(『世界経済論叢』)(復旦大学) 2017年第1巻, pp. 234-248 (中国語))。

戴二彪, 2017, 「九州佐賀国際空港の利用者特徴と旅行動 —上海便の聞き取り調査から—」, pp. 39-56, 『九州佐賀総合政策研究』。

Dai Erbiao, 2016. “China’s inclusive development strategy and its effect on regional disparity”, *Journal of Chinese Economic and Business Studies*, Volume 14, Issue 3, pp. 263-278 (published by Taylor & Francis Group) .

戴二彪, 2016, 「訪日アジア観光客の観光地選択行動」『東アジアへの視点』, 第27巻1号, pp.1-20。

田村一軌, 戴二彪, 2016, 「九州地域における人口減少対策：国際観光都市別府の事例からの示唆」, 『東アジアへの視点』第26巻3号, pp.1-12。

〔雑誌論文〕(計 8 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：北京大学旅遊(観光)研究センター長 吳必虎教授
華僑大学旅遊(観光)学院院长 黄遠水教授

ローマ字氏名：WU Bihu
HUANG Yuanshui

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。